

番号	4	事業名	復旧治山	市町村名	辰野町	路河川名	天竜川流域 桑沢川支流	箇所名(ふりがな)	大日尻(だびじり)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○平成18年7月豪雨により、大量の土砂が下流人家、農地に流出したため、平成18年度には災害関連緊急治山事業の採択を受け谷止工を実施。平成19・20年度には治山激甚災害対策特別緊急事業によりさらに、谷止工、流路工を実施した。しかし、溪流内には不安定土砂が大量に残っているため、復旧治山事業の採択を受け、谷止工6個、床固工4個を設置した。					②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価	
							○森林の持つ様々な環境保全機能が回復しつつあり、自然環境の維持・向上に寄与している。		B	
事業目的	○平成18年度には災害関連緊急治山事業を実施、平成19・20年度には治山激甚災害対策特別緊急事業を実施したが、この事業は事業期間が2ヶ年となっているため、復旧治山事業を導入しての復旧工事となった。					③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価	
							○長野県が定期的に見回り点検を行っており、現時点では異常は見当たらない。 ○今後のインフラ長寿命化対策を計画的に進めるにあたり、H29に重要施設の詳細な調査を実施し、当事業で実施した施設に異常がないことを確認する。 ○北大出区では復旧した溪流内にヒノキ・ナラを植栽、周辺森林では森林整備を行っている。		A	
事業概要	当初工期	H21~H23	費用対効果(当初時)	3.5	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H21~H23	費用対効果(評価時)	3.5	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	谷止工6個 床固工4個		185,000	92,500		83,250	9,250		
	最終事業実績(主な工種)	谷止工6個 床固工4個		184,496	92,248		83,023	9,225		
事業期間の延長、短縮理由と分析						④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析							○北大出区長から、「上流部は治山事業により整備を行い、下流部田んぼや水路の改修は他事業で実施、以後、被災はなく、安心して生活できている。」との意見を得た。		A	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	改善措置の必要性		現在までのところ、改善措置の必要性は認められない。	
	直接的効果(定量的・定性的)	○事業実施により、谷止工・床固工による荒廃溪流の不安定土砂の安定化及び溪岸侵食の防止を進めたことにより、森林の水土保全機能の向上及び保全対象の安全確保が図られた。 ○事業完了後は以下の豪雨を経験したが、整備した流域内においては洪水・土砂災害は発生しなかった。(アメダス辰野による観測値) ・平成24年8月5~6日 連続雨量 77.0mm(最大1時間雨量 70.5mm) ・平成25年9月16日 連続雨量 89.5mm(最大1時間雨量 41.0mm) ・平成26年7月5日 連続雨量 85.5mm(最大1時間雨量 24.0mm) ・平成26年10月5~6日 連続雨量 90.0mm(最大1時間雨量 9.5mm) ・平成28年9月17~18日 連続雨量 89.0mm(最大1時間雨量 16.5mm)					B	○森林の水土保全機能を維持・向上させていくために、流域内の森林現況や荒廃状況、過去の防災対策の履歴や発現効果等を正確に把握・検証した上で、長期的な視野に立った、効果的な治山対策を検討していく必要がある。 ○平成25年度~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザー測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。 ※航空レーザー測量:航空機から地上に向けてレーザー光を照射し、地上からの反射波との時間差により地上までの距離を求めることで、詳細な地表面の形状等を把握することができる測量方法。 ○平成29年度に、インフラ長寿命化対策に向けた既存施設の点検調査を行うことにより、溪流内に存在する施設の補修等に取り組んでいく。		
		間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○地域の安全・安心な生活環境の保全、流域の自然環境や森林景観の維持向上に寄与している。					部局意見	荒廃溪流の復旧により、山地災害の未然防止や土砂流出防備機能の回復が図られ、事業の目的を達成している。	
							技術管理室意見	荒廃溪流等が安定し、一定の事業効果が認められる。		
					県の自己評価	○事業目的を概ね達成				